

製品名: T-カドヘリンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18714**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	78kDa

抗原情報

遺伝子名	CDH13
別名	CDH13; CDHH; Cadherin-13; Heart cadherin; H-cadherin; P105; Truncated cadherin; T-cad; T-cadherin
遺伝子 ID	1012.0
SwissProt ID	P55290
免疫原	抗血清はヒト CDH13 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

背景

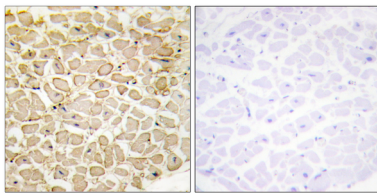
この遺伝子はカドヘリンスーパーファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は細胞膜表面に局在し、

膜貫通ドメインではなく GPI 部位によって固定されています。このタンパク質は他のカドヘリンに特徴的な細胞質ドメインを欠いているため、細胞間接着糖タンパク質ではないと考えられています。このタンパク質は、神経分化における軸索成長の負の調節因子として機能します。また、血管内皮細胞を酸化ストレスによるアポトーシスから保護し、アテローム性動脈硬化症に対する抵抗性と関連しています。この遺伝子は多くの種類の癌で高メチル化されています。選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2011 年 5 月],発達段階: 成体脳では発達中の脳よりも高いレベルで発現しています。機能: カドヘリンはカルシウム依存性細胞接着タンパク質です。細胞同士を繋ぐ際に、カドヘリンはホモフィリックな方法で互いに優先的に相互作用します。このように、カドヘリンは異種細胞の選別に寄与する可能性がある。神経細胞の成長を抑制する因子として作用する可能性がある。類似性: 5つのカドヘリンドメインを含む。組織特異性: 心臓で高発現する。中枢神経系では、大脳皮質、延髄、海馬、扁桃体、視床、黒質で発現する。小脳や脊髄では発現は検出されない。

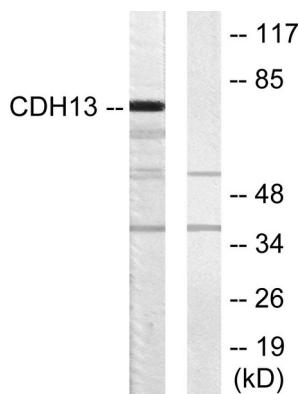
研究分野

アドヘレンス・ジャンクション

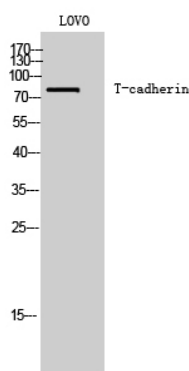
画像データ



CDH13 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CDH13 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



T-カドヘリンポリクローナル抗体を用いた LOVO 細胞のウェスタンブロット解析